



Title	鴨を見るたび思うこと
Author(s)	黒川, 彩子
Citation	Gallia. 2026, 65, p. 107-107
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104484
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

鴨を見るたび思うこと

黒川 彩子

うちの近くには多摩川の支流が流れており、子どもたちに「主」と呼ばれる大きな魚やメダカ、小エビ、ザリガニなどが生息し、またそれを狙ってカワセミや鴨がやってきています。そんな鴨たちを見ていると、私はいつも井元先生の授業を思い出します。

井元先生には、特にTAをさせていただいたときにお世話になりました。授業のサポートが仕事内容でしたが、どちらかというと授業の進め方、学生たちの関心の引き方などこちらが教わることがとても多かったように思います。貴重な一時間をいただき、授業をさせていただく機会もありました。そして、特に記憶にのこっているのが「鴨」でした。フランスのニュースを聞き取るという趣旨の授業で、毎回違う内容を紹介していましたが、その日はフォアグラ畜産農家の恰幅のいいおじさんが、「俺は鴨の言葉がわかるんだ」と豪語して、鴨の鳴き真似をするというなかなか楽しいものでした。画面の鴨たちは伝統的な方法とは異なり、元気よく自由に動いています。面白い内容だったのに静かな学生たちの反応を見て、先生が「フォアグラは知っているよね。食べたことあるよね」と尋ねると、なんと食べたことはないとのこと。フォアグラというものがピンと来ていないのです。そこから、本来の作り方などを説明してその日の授業は終わりましたが、学期末、先生がフォアグラのパテを持ってきてくださいました。授業で聞いただけではおとぎの国の食べ物のように思っていたものが目の前に現れ、学生たちも興味深そうに近寄ってきます。言葉だけでなく、フランス文化の今昔を視覚、聴覚、味覚を使って楽しめる先生の授業を受けられることはとても幸せだと思いました。

今思うと、フォアグラなのだからガチョウが映っていた可能性もあるのですが、どこですれたのか記憶の中では身近にいる鴨がああ授業と結びついています。今近所の鴨たちを見て、私もフランスを総合的に伝えたいと思い頑張っています。先生、貴重な経験をありがとうございました。

(法政大学非常勤講師)